

有明高専だより

第82号
1994.3



中庭の紅梅

目 次

特集 30周年記念行事	ロボットコンテスト・プログラミングコンテスト ······ 13
(記念式典・祝賀会・演奏会・講演会) ······ 2	シリーズ「クラブ紹介」 ······ 14
OB・OG高専を語る ······ 4	学生会だより ······ 15
シリーズ「人物・いま」 ······ 7	学寮だより ······ 16
高専祭 ······ 8	吹奏楽部定期演奏会 ······ 17
シリーズ「中学校訪問」 ······ 10	各種行事 ······ 18
入試説明会・入学志願状況・編入学 ······ 11	編集後記 ······ 18
卒業をまえにして ······ 12	

特集

創立30周年記念行事

式典

期日 平成5年11月6日(土)
会場 本校第二体育館
出席者 来賓 125名
教職員 110名
学生 250名



祝賀会

祝賀会

期日 平成5年11月6日(土)
会場 大牟田ガーデンホテル
出席者 来賓 135名
卒業生 35名
教職員 90名

演奏会

期日 平成5年11月12日(金)
会場 大牟田文化会館
演奏 九州交響楽団
曲目 「サンバ」序曲(エロール)
「カルメン」組曲(ビゼー)
「美しく青きドナウ」(J・シュトラウス)
「トリッチ・トラッチ・ポルカ」
(J・シュトラウス)
「G線上のアリア」(バッハ)
「はげ山の一夜」(ムソルグスキー)



講演会

期日 平成5年11月12日(金)
会場 大牟田市文化会館大ホール
演題 「スポーツと人生」
講師 田口信教(たぐちのぶたか)氏

講師略歴

昭和26年6月18日愛媛県東予市生まれ。第20回ミュンヘン・オリンピック(昭和47年)に参加、100m平泳ぎで1分4秒94の世界新記録で優勝。現在、鹿屋体育大学体育学部教授。



講演要旨

今日は、私の体験から、どうしたらオリンピックで金メダルが取れるかについてお話ししたいと思います。

まず、第1のポイントは、素質があることです。

その競技への向き、不向きを調べないでやると、スポーツ障害を引き起します。スポーツ障害で悩む75%の人は素質にあった種目をしていないのです。まず、みなさんの素質をじっくりと調べましょう。みなさんは誰でも何かより優れた素質があるのです。

スポーツ選手ではありませんが、盲目的歌手スティーブ・ワンダーは小学校のとき、ほかの人には聞こえない教室の天井の鼠の足音を聞き分けました。そういう耳をしていたからこそ、偉大な歌手になれたのです。こういう素質は、年をとっても気づいても仕方ないのです。みなさん、若いうちに自分をよく見つめてください。そして、自分の優れた素質を見発してください。

第2のポイントは、良い環境に進み、良い指導者につくことです。昔の泳法と現代の泳法は全く異なります。泳ぎ方はどんどん進歩しているのです。

そういったことを無視して、我流でやっても、よい結果は得られません。そういう場合、一番確実で、簡単な方法は、最先端の人の泳法をまねるということです。テストで人の答案をまねたらカンニングになりますが、水泳では人の泳法を盗んでも、もちろんルール違反ではありません。私は、米国に水泳留学中、よくプールの中に水中カメラを持ち込んで優秀な選手の泳ぎ方を撮影し、研究したものです。

第3のポイントは、目標を高く掲げてそれを達成することです。

目標を達成するには、計画をたてることです。私は、ドン・ショランダーと同じ日課をこなしました。朝5時半から2時間、夕方2時間の練習を3日続けて1日休み、2日続けて1日休むという毎日です。私はこれを3年続けて日本一になり、7年続けて世界一になりました。

また、目標は大きく書いてください。私は、大きな日の丸に「世界一」と書いて自分の部屋に貼り、毎日「世界一になるぞ」と叫びました。目標をただ頭で考えるだけでは、口に出して言うのとでは達成率が100倍も違うのです。

あとは、世界一と同じことができればよいのです。まず、世界一と自分の運動能力を比較します。例えば、世界一の握力は75kg、私は45kgしかありませんでした。それで、毎日鍛えました。すると、95kgまで上がりました。肺活量、息を止める長さ、垂直跳び、腕たて伏せ等も世界一を越えるまで鍛えました。人間には限界はないと思います。限界と思ったところが限界となるのでしょうか。考え方一つです。自分で自分を小さくしないでください。計画的に、時間をかけてやれば驚くことができるのです。しかし、のんびりやってはいけません。毎回限界まで挑戦しなければ、運動能力は向上しません。

第4のポイントは、勉強とのバランスです。勉強に不安があれば、競技にも思いきって打ち込めません。私の場合は、中学校の校長先生のはからいで、教壇のすぐ前にすわらされました。お陰で、練習で疲れていても授業中居眠りすることなく過ごすことができました。このように、勉強とのバランスをとるためにも計画をたてることが必要です。バランスのとれた、計画にのっとった毎日を過ごすと、生活にリズムが出てきます。

金メダルを取るために最後に必要なものは運です。運をつかむには、神様を味方にすることです。あらためて考えてみると、優勝する選手はそれにふさわしい選手であったとつくづく思います。ある時、2位であったジョン・ヘンケン選手は、1位であった私が泳法違反で失格とされそうになったとき、私をかばってくれました。そのとき、私はこの選手は強くなるなと思いました。人の幸福を心から祝福できる人間なのです。その後のオリンピックで彼は優勝しました。

私は、この運をつかむために一日一善どころか、一日十善を目指していました。困っている人を助けたり、ごみ拾いをしました。今でも、ごみ拾い等は続けております。運をつかむためには、日頃から良い行いを積み重ねて神様を味方にすることだと思っています。

OB・OG高専を語る

出席者

重村 栄 (化学3期生)荒尾市議会議員 石坂桂一郎 (機械14期生)ニチゾウテック
 金丸富士典 (建築2期生)春秋社 田渕 佳苗 (電気22期生)九州帝京短期大学
 大森(中島)洋子 (建築7期生)大森設計室 濑戸 洋 (教務主事)



重村 栄氏

司会 きょうはお忙しいなか、お集まりいただきありがとうございます。ご承知のように、本校は、今年でまる30周年を迎えます。そこで、卒業生のみなさんには学校時代の思い出なりとお聞かせ願えればと思い来ていただきました。まずは、同窓会長の重村さんから。

重村 私にとっての一番の思い出は、のっけから、物騒な話ですが、授業ボイコットです。有明高専30年の歴史の中でも、授業ボイコットしたのは私たちだけではないでしょうか。僕たちが4年のときだったと思いますが、1日、授業ボイコットしたことがあります。

司会 きっかけは何ですか。

重村 当時は、エンタープライズの問題などもあって、学生運動の激しいときでしたから、いわゆる若気の至りで、何となくそんなふうになったのですが、直接のきっかけは学生の処分に抗議してだったと記憶しています。半日か数時間だけだったように記憶していますが、それでも、そのことが青春の1ページとして懐かしい思い出です。それから、高専時代が長かったという記憶がありますね。

石坂 それは確かです。最初の3年くらいまではいいのですが、後の2年は長く感じました。惰性で2年間を過ごしたようなものです。

司会 私は小学校を長く感じましたけど。

重村 確かに、小学校が高専より1年長いのですが、高専は勉強しないと留年するのでよけい長く感じたのかもしれません。

司会 金丸さんはいかがですか。

金丸 高専に入学した動機が、受験勉強をしなくても良いということでしたから、高専の長さに特に違和感はありませんでした。受験戦争というふるいにかけられることなく、人間関係をじっくり育てることができ、今でも良かったと思っています。私と同じ意図を持って入学している学生は、ほかにもいたようです。

重村 確かに、高専では友だち付き合いが競争相手では

司会

瀬戸 洋 (教務主事)

ないという利点はありますね。

金丸 この前、留年した者も止めた者も一緒に建築学科1回生の同窓会を開いたのですが、その席でもしきりにそれを言っていました。15才で会って、5年間かけてつちかわれた人間関係は貴重だと思います。ただ、一方では、工学を志す同じメンバーで5年間行くマイナスもあります。普通高校だったらもっといろいろな奴に出会えたろうなという気もします。私の場合、外の連中とも結構付き合っていましたが、今、それが財産になっています。高専で得られない友だちを、無意識のうちに外に求めたのだと思います。

中島 私はたまたま大学に進んで、工学以外のことをやる人とも知りあえる機会ができて非常に良かったと思っています。今、建築事務所を開いていますが、それが現在結構役立っています。それから、お尋ねの、高専時代の思い出ですが、それは、やはり、体育祭と高専祭ではないでしょうか。高専祭で毎日夜遅くまで残って、高専の模型を作ったのを今でも覚えています。

石坂 私の場合、1年生のとき、球技大会で決勝まで進み、5年生と対戦したのが思い出として残っています。もう一つ、修学旅行のとき、自分たちで計画を立て、旅行社とも交渉して、修学旅行に行ったのが懐かしく思い出されます。お仕着せのコースではなく、自分たちで話し合って決めたコースに従って旅行をすることに感激したのでしょうか。

司会 現在は修学旅行はなくなって、3泊4日の研修旅行になっています。

石坂 それは残念ですね。私たちはすべての乗り物を利用する計画を立て、飛行機、汽車、船、車、ロープウェイに乗りました。

中島 それは面白いですね。

司会 田渕さんにとっての思い出は何でしょう。

田渕 クラスに女性がいない、360度男性ばかりの状態のなかで、男性に対して抱いていた理想がすべて消えていったのが強烈でした。5年間1度も口をきいた。



田渕佳苗氏

てくれなかった人もいます。男性ってこんなに陰湿かと思いました。そんな中で九州地区弁論大会に出場して、他高専の人と知りあえたのはとても新鮮でした。今は女性も増えて、そんなことも少なくなっていると思いますが。それから、なぜだか分かりませんが、高専では先輩が非常に年上に見えましたね。今考えると不思議な気がしますけど。

重村 それは確かです。私は3回生で、1回生と2つしか違わないのですが、大人と子供くらい違うという印象を受けました。そして、先輩は威圧感がありました。その後遺症で先輩は今でも怖いですね。

金丸 私も先輩の言動に強烈な刺激を受けました。理屈ではないショックを受けました。あの頃はつまらないことで背伸びをしたい年ごろなので、特に影響を受けやすいんでしょうね。クラスメートより早く煙草を飲みたいとか、酒を飲みたいとか。

重村 そういうところが、良くも悪くも15才から20才までいる高専の高校と違うところでしょうね。でも、高専に来たお陰で、高校ではできないだろういろいろなことができました。在学中にあちこちに旅行したり、自転車で四国を一周したのはいい思い出です。本がたくさん読めたのも高専なればこそです。国語の授業でずいぶん読まされました。あれはありがたかったです。棚町先生の言葉で、今でも忘れられない言葉があります。「何が彼女をそうさせたか」というやつです。

中島 「キュリー夫人」ですね。私も覚えています。「子供もいる普通の家庭の主婦にどうしてあんな偉大なことができたのか。何が彼女をそうさせたか」と続くんですよね。

重村 あの言葉に強烈なインパクトを受けました。あんな授業は普通高校ではできないと思いますよ。ある夏、あの6巻からなる大冊の「チボ一家の人々」を2回読みました。おかげで今も本を読むのが苦痛ではありません。

金丸 私もあのとき本を読む習慣をつけてもらったような気がします。

司会 キュリー夫人は工学畠のキャリアウーマンのはしりのような人ですが、女性の自立に工学は役立っているのでしょうか。

中島 建築学科について言えば、大いに役立っていると思います。建築関係の仕事は家でもできる仕事が多いというあたりが、女性から見れば便利ですね。事務所を開くにしても、登録費はわずかなものですから、そういう意味では自立しやす

いですね。

金丸 女性が仕事を続けていく仕事としては、建築は非常にいいんじゃないでしょうか。これからどんどん老人が増えていく、老人を支えなければならなくなつたとき、労働力が足りないのは目に見えています。

高齢化社会を男だけでは支えられないわけですから、当然女性が表に出てこざるをえないと思います。今すぐドラステックに変わることはないでしょうが、いずれ女性がシャドーワーカーであり続けることはできなくなると思います。

石坂 確かに、労働力として女子の存在はますます大切になってくると思いますが、ただ、女子を採用する場合、長く続けてくれるかどうかが一番気になるところですね。2・3年で辞められると、投資したものを回収できないんですよ。事務系だと簡単に入れ替えができるのですが、技術系は簡単に入れ替えできませんし。会社から言えば、そのあたりが技術系で女性を探る難しさですね。

中島 それは言えるでしょうね。でも、女性の側から言わせてもらえば、いわゆる企業戦士は女性の犠牲のうえに成り立っている部分があると思います。そのあたりの社会環境をもっと整えて欲しいですね。そうでないと、結局、結婚を機に女性が会社を辞めざるをえないと思います。

司会 クラスマートは現在どうしてらっしゃいますか。

中島 私のほかに2人女子がいたのですが、2人とも専業主婦です。専門を生かして仕事をしているのは私だけです。

司会 女性が仕事を続けていくことは、非常に難しいんですね。ところで、みなさんは今どんな仕事をなさっているのですか。

石坂 設備関係の仕事をしています。具体的には、プールを作ったり、焼却炉を作ったりしています。

金丸 私は設計事務所を開いているわけですが、最近は、病院や保険関係の仕事が多いですね。ほか、マーケティング・リサーチや許認可申請のサポートなども手掛けています。

中島 私は主人と一緒に設計事務所をやっているんですが、思うところあって、今、大学院に通っています。建築物を単独に見るのではなく、町並の中にある建物という観点からもう一度見直してみたいと思って、勉強し直す気になりました。将来、行政と住民の間に立った町作りができるいいなと思っています。できれば、住民の側にたった都市プランナーになれればいいんですが。



金丸富士典氏

田渕 私は大学で技官のような仕事をしています。特別な名称はありませんが、技術職員という立場だと思います。先生の手伝いをしたり、コンピュータの管理をしたりしています。

重村 みなさん学校のキャリアを生かされているのに、私だけ技術とはあまり縁のない議員をしているのですが、これから社会は2つのことが大きな問題になるだろうと思っています。一つは老人問題、もう一つは教育問題です。私としては、教育問題に真剣に取り組んでみたいと思っています。

司会 具体的には。

重村 これまでの教育は、国民を平準化するには非常に良かったと思います。しかし、これからはそれだけではいけないように思います。今後も今の教育を押し進めていくと、国際社会の中で孤立化するような気がします。もっと個人の個性を生かすような教育が必要な気がします。今のようなJIS規格の人間ばかりでは、国際社会のなかで通用しないように思うのです。もっとスパンを広くして、バラエティーのある人間教育をしたいですね。それが、もっかの私のテーマです。その手始めとして、教育を親や学校だけに任せることではなく、地域全体・社会全体でも子供を育てていくような環境作りをしたいと思っています。

司会 重村さんがちょうど教育のことを話題にされたので、最後に、みなさんに一言ずつ、30年を迎えた有明高専に対する提言みたいなものをお願いしたいと思います。石坂さんからいかがでしょう。



石坂桂一郎氏

石坂 木本先生がいつも口にされていたのは、高専は自由が利くんだけ、何をやるにしても縛られることはないんだということでした。

もし、そうであれば、棒にはまつた教育をするのではなく、もっと自由な発想の教育をしたらどうかと思います。決めたことを決めただけやらせるのではなく、もう少し学生の個性を伸ばす自由度があつて良いのではないかと思います。

金丸 最近よく学校に来る機会があるのですが、キャンパスの様子が昔とちっとも変わらないんですよ。樹木だけは大きくなっていますけど。建築学科があってこれではちょっと寂しいですね。もっと環境設備を考えていいくべきだと思います。別にきれいにせよと言うことではありません。もう少し生きた人間の匂いが欲しいと言うことです。気楽に呼吸できる雰囲気、もっとライブな雰囲気が欲しいですね。今ままの学校は味気ないですよ。

中島 有明高専は大牟田の最高学府ですから、公開講座だけでなく、もっと地域に根付いた活動をして欲しいですね。例えば、建築学科でしたら、大牟田の再開発の提言を行うとか、それも学校内だけでやるのではなく、行政、住民一体となってやり、大牟田における有明高専の立場をアピールして欲しいと思います。都会に人材を送り出すだけの学校というのはちょっとさみしいですね。

田渕 私は、いわば、広場的な感覚の学校であつて欲しいと思います。それから、学生はもっと主体性を持って欲しいですね。与えられたものを鵜呑にするだけでなく、自分で考えることのできる人になって欲しいですね。

重村 高専は5年間行く学校です。その5年間をマイナス思考するのではなく、プラス思考して、5年間なければできないようなこと、受験戦争のない高専だからこそできるようなことをやって欲しいですね。高専のオリジナリティーをもっと前面にだして欲しいと思います。例えば、カリキュラムなども思い切ったものにされたりいかがでしょう。これくらいの規模の学校だったら、それが案外無理なくできるような気がしますけど。

石坂 学校で学んだことが即仕事に役立つということは正直なところそうありません。だから、私も学生がもっと興味を覚えるようなことも教科課程に加えるのもいいような気がしますね。

金丸 最後に、この場を借りて一つ紹介させて下さい。実は、萩明会で来年ツアーを募ってヨーロッパの建築物を見に行く計画があります。じっさいやって見て、良ければ、2回目は在学生にも呼びかけたらと考えています。

重村 それはいいですね。そのときは私にも是非声をかけてください。私も最後にもう一つだけ。学校の名前は変えられないものでしょうか。工業高等専門学校という名前はいかにも長ったらしいし、まぎらわしいですよ。

中島 同感です。なかなか高専という名前は定着しませんね。今でも各種専門学校と間違われます。

司会 一度「専科大学」に名称変更する話が持ち上がったのですが、結局だめになりました。名称変更の問題は、法律もからんでなかなか難しく、一朝一夕には行かないようです。話は尽きませんが、きょうのところはこれで。お忙しいところをありがとうございました。



瀬戸 洋

シリーズ

人物・いま

今回は30周年ということで、草創期をご存知のお二人に登場を願って、各お立場でのこの30年を振り返ってもらいました。



一般科教授 品川尚司

本校創立30周年を機に、宮川図書係長と私に本欄からお呼びなので、着任初日の失敗談から始めましょう。寮の食堂が講堂がわり。居並ぶ俊英をまえに、男子の学校に来て嬉しいと口走ったばかりに、後で才媛諸姉

の奇襲攻撃を受けました。

さて、工業技術貿易立国の国はのもとに日本が歩みはじめ、その一翼を担う意味もこめて、工業高専が誕生しました。創立2年目に、この萩尾台の赤土の地肌に、コンクリートの管理棟と校舎（一般棟）が建ちました。学生たちは誇り高く、知的好奇心が旺盛な人が多かったようになります。

やがて国はの効果が現実にあらわれて、物は豊かになりましたが、心貧しい時代へと移っていました。なぜそうなったのか、物質的充足感あるいは快楽は、修練とか精神的価値の追及を排除しようとするようです。例えば、私たちの家庭はきわどい映画館とどたばた演芸場の出店に成りさがる危険性を秘めています。かつては学生からTVの騒音で勉強できぬ悩みを聞いたものです。もちろんりっぱなTV番組もたくさんあり、その選択の基準が問題なのです。大衆におもねるマスメディアに節操を売ってはおしまいでしょう。

学校教育もいま危険な時期に差しかかっているとおもいます。松下村塾ならいざしらず、かつて学習塾の教育をもちあげる短絡的粗雑な人に啞然としたことがあります。私たちのこの美しい国を、どのようにしようとするのかを考えることが、われわれの頭から欠落していないでしょうか。

亭亭たる大樹が校舎と高さを競う程になり、学校は壮年期にさしかかります。草創期の高い志が色あせたはずはありません。安定が停滞に、自由闊達が放縱とおごりに変容せず、学生が、有明高専の生活を通して、人格と学識両面において、自立できるよう心から祈らずにはおられません。



図書係長 宮川喜己

こちらに来る前は大学にいましたが、学生とはじめて接してみて、大変純朴で優秀な学生が多く、他の高校生とは一味違い、学生自身が我々は国立の高専生だという誇りと気概を感じられましたね。

開校準備の頃は、事務室が大牟田市役所にあったんですが、事務用品がなにもなく、近所の店に買いに行った（当時は店に買に行つた）ところ店の人のいわく、「大牟田に鉱泉」が出るんですかとの答えには啞然とするやら、苦笑いするやら今だに懐かしく思い出されます。仮校舎時代の忘れられない思い出で、汚い話ですが、当時学校のトイレは汲み取り式で、雨が降ると水が流れ込み、すぐ満杯になるんです。このため雨降りのトイレ（大）は必ず新聞紙持参（お釣りがくるため）で駆け込んだのを思い出します。

開校当初は、学生、教職員ともに小人数から出発しましたので、学校全体が大変家庭的で、たまに登下校のスクールバスに乗せていただいたんですが、そのバスの中での学生との会話が大変楽しかったのが強く印象に残っています。

寮務係時代の思い出は、寮生との夜間行軍（寮生漫歩）で夜食の「おにぎり」を腹一杯食べ、大変きつかったんですが、寮に帰ってからの一風呂（寮生と一緒に）は今だに忘れない思い出です。

寮生追い出しコンペで腕相撲にも参加しましたが、当時は若かったんですね。忘れもしません、寮生（下級生）との戦績は不敗のままです。これは私の唯一の自慢でもあります。

最近、図書館の利用が大変少ないので、大いに利用してもらうため、図書館の環境をなんとしても改善したいと思っています。

図書館のネットワーク化とビデオライブラリーは是非実現したいですね。

座右の銘は『初心わするべからず』、願望をこめて『愚直』です。

高専祭

未来見聞録



第19回高専祭を終えて

高専祭実行委員長 5M 大園真樹

去る10月30・31日の両日、未来見聞録～30の軌跡と1つの節目～へのテーマのもとに行われた第19回の高専祭いかがでしたか。前日までの雨も当日はなんとか止み、10月とは思えぬ寒さの中、前回を大幅に上回る4,000人もの来校者を記録することができ、実行委員一同大変よろこんでおります。今年は、学校創立30周年記念高専祭ということもあり、各学科、前回までとは一味違う工夫が随所にみられ、みなさまにも満足していただけたことと思います。4、5年生は最後の高専祭となりましたので、2年後の第20回高専祭の成功に期待して、第19回高専祭の仕事をここに終了させていただきます。なお、同窓会からハッピーバースデー30着寄贈していただきました。本当にありがとうございます。

先生のコメント

僕にとって初めての高専祭。楽しかった。一番印象に残ったのは、バンドで演奏する男たちの情熱的な表情。あんな顔は授業中には絶対見られないものだ。うれしい発見でした。

一般科 教官

学生がお客様に喜んでもらおうと一生懸命取り組む姿、印象的でした。

共通専門 教官



30の軌跡と1つの節目

学生会長の言葉

5M 武下 治紹

30周年祭、いかがだったでしょうか。各学科とも、派手に盛り上がって、中には、ステージにあがって熱唱する学生もいたし、中夜祭では、本格的な変態も出没(?)して私たちも、まさかあそこまでやるとは思っていなかったんで、別の意味で感心していました。本当にこの学校って芸達者が多いんで、企画側も大だすかりでした。4E松崎君、2年後も楽しみにしています！



学生のコメント

今回の高専祭は、もちつき大会などを通じて地元の人たちと一緒にになって、楽しかったような気がします。

(3年女子)

3on3などとても盛り上がっておもしろかった。30周年にふさわしい高専祭だった。

(1年女子)

今年の高専祭は1昨年のものより、質、量ともに増えていてよかったと思う。中夜祭が盛り上がって楽しかった。

(4年男子)



シリーズ**中学校訪問****田隈中学校(大牟田市)**

Q 田隈中学校の沿革、概要をお聞かせください。

A 本校は、昭和35年に設立された比較的新しい学校です。両隣りの橋・歴木中学校から一部が分離して創立されました。現在の鉄筋校舎になったのは61年で、生徒数は830人、22学級です。この地域は、昔の三池藩の城下町だった所ですが、近年宅地化が進み、地の方々と、新たにこられた方々とで構成された地域となっています。

Q 教育目標についてお聞かせください。

A 目指す学校像として、本校の三大特色というのがあります。それは、第一に学習環境の整備充実、第二は生徒会活動の充実、第三は部活動の育成です。

第一については、“花いっぱい運動”に力を入れています。校内を四季の花々で満たし、生徒たちをなごやかにし、豊かな心を育てるため、生徒会の緑化委員が中心になり、花壇の整備を熱心に行っています。市主催の春と秋のコンクールで、いつも優秀賞か最優秀賞をもらつておる、全国でも表彰されたことがあります。

第二では、年2回生徒総会が開かれ、年間計画の作成と活動の総括および反省を行っています。あいさつ運動や緑化運動もそうですが、空き缶拾いなどの環境整備に生徒会活動として取り組んでいます。

第三の部活動は、全体として非常に活発です。文化部では、特に演劇部が毎年発表会を行い、見応えのある劇を見せてくれます。文化祭と体育祭とは隔年開催で、文化祭のある時はもちろん、文化祭のない年も活発に活動しているプラスバンド部と合同で、市の文化会館で発表会を行うことを伝統的に続けています。

つぎに運動部ですが、生徒の約半数は運動部に入っています。皆熱心に練習に励んでいますので、放課後は、各部が入り交じってたいへん混雑します。陸上部は中体連で市内優勝、サッカーやバスケット部は筑後大会に参加するなど、多くの部がそれぞれ活動しています。

本校の部活の特徴は、一部の選手だけでなく、多数の



西 繁 校長

生徒たちが汗を流して取り組んでおり、勉強とバランスをとって、両立させてやっているというところでしょう。Q 情報処理の教育は、現在どのような形で行われていますか。

A 市では、3年間に分けてハード部門の整備を行ってきたのですが、本校は昨年10月にやっとコンピュータ室が完成し、パソコン本体22台が入ったばかりです。予算が足りないとかで、ソフトがそろわず、まだ稼動できない状態です。しかし、先生方への情報処理教育の研修が何度も行われていますので、ソフトがそろえば、本格的に動き出でてしまう。計画としては、技術家庭や理科、数学の授業の中に取り入れていく予定です。

Q 高専に対する生徒たちの印象はどうでしょうか。

A 高専は人気が出てきましたね。人気の原因の一つはロボット・コンテストの放送でしょう。有明はよく全国大会まで残って健闘していますね。あれを見て高専に憧れ、行きたいなあと思う生徒たちが多いようです。

Q 最後に、高専に対する要望などをお聞かせください。

A 夏休み中の公開講座や、入試説明会などをしていますが、この他に高専生の普段の生活を見学させていただけたらと思います。学級単位で、現在、工場訪問で牛乳工場等を見学に行くことがあるのですが、これと同じように、学校訪問をして実際に実験・実習をしたり、勉強をしている状況を見学できればと思います。これは、進路指導にもなりますし、生徒たちにとっては貴重な体験・経験になると思います。

校舎の玄関前や横、裏手などに花壇があり、草花が植えられていました。残念ながら、季節がら花は咲いていませんでしたが、来春の開花のすばらしさが想像できるほどの手入れの行き届きようでした。ちょうど三者面談日というお忙しい日にもかかわらず、私たちの質問にていねいに答えていただいた西 繁校長先生に感謝いたします。

(12月20日訪問 聞き手蓑田登世子 三宅昭春)

**平成6年度入試説明会・校内見学会**

平成5年10月24日(日)に3班(1班200名余り)に分けて、中学生・保護者・先生方に対し、平成6年度入試説明会と校内見学会を実施した。

当日のスケジュールと校内見学会の展示テーマは以下のとおりである。

スケジュール

1 校長挨拶

2 スライドによる有明高専紹介

3 入試説明

4 質疑応答

5 校内見学会(各学科の展示)

見学会終了後、修己館では、3主事・各学科主任が参加者の相談に応じた。

**参加者数**

男子生徒	女子生徒	生徒計	保護者	教職員	合計
329(人)	192	521	111	57	689

見学会後のアンケートから入試説明会・見学会の感想のいくつかをピックアップしてみると、

○色々な学科があり、設備が充実してすごいと思った。
○専門用語が難しいので、もう少しやさしく説明してほしい。

○普通高校と高専の違いがよくわかった。

○女子学生の割合が高いのに驚いた。

○全学科を見学するより、希望の学科を集中的に見学する方が生徒の理解が深まるのではないか。

平成6年度編入学試験

平成5年8月17日(火) 工業高校系の、12月20日(月)には普通高校系からの編入学試験が実施された。受験者数と合格者数は以下のとおりである。

工業高校系

	志願者数	合格者数
機械工学科	1	1
電子情報工学科	4	2
工業化学科	1	1
建築学科	2	1

普通高校系

電子情報工学科	1	0
---------	---	---

**平成6年度入学試験志願者状況**

	志願者数	倍率
機械工学科	125(7)	3.1
電気工学科	159(7)	4.0
電子情報工学科	122(30)	3.1
工業化学科	118(41)	3.0
建築学科	210(69)	5.3
計	734(154)	3.7

()は女子内数

卒業をまえにして

3年間を振りかえって

——留学生第1号として——

5E 林 伸敏



いよいよ高専のみなさんと別離する日が近付いてまいりました。振り返ってみると、3年生に編入されてからの高専での3年間は、あっという間に終ってしまったような気がします。しかし、この有明高専で体験したうれしいこと、悲しいこと、つらいことは、きっとよい思い出になることでしょう。

3年前、東京の国際学友会館ではじめて電気工学科の辻先生とお会いしたとき、私が有明高専の留学生第1号であると聞いて、不安でいっぱいになりました。しかし、大牟田に着いて、駅に辻先生とチュータの牧嶋君のすがたを見たとき、本当にほっとしました。そして、岱明寮で寮母さんの親しい笑顔を見たとき、不安が少しずつなくなるのを感じました。ただ、その夜、初めてお風呂に入ったときの恥ずかしさは今でも覚えています。

授業が始まって、初めて3年電気科の教室に入って、学生服を着ているクラスメイトを見ると、みんなが幼い顔をしているのにびっくりしました。また、先生が、特に電気工学科の先生が方言で授業をされるのには困りました。同級生とのコミュニケーションも思うようにいかず、1年間、東京で勉強した言葉は役に立たないのかと不安になりました。ですから、日本語の先生がいないのには本当にショックを受けました。

私は進学に2回、就職に1回失敗しました。そのときはさすがに落ち込みました。しかし、進学や就職に失敗しても、私の人生が失敗したわけではありません。「失敗は成功のもと」という諺を忘れないようにして、これから的人生を楽しみたいと思います。

たくさんの人々にお世話になりました。心から感謝を申し上げます。その感謝の気持ちを次の諺で表わしたいと思います。

「一日之師、一生之父。」

5年間の思い出

——心のオアシス——

5I 井上 知江



昨年の秋頃からクラスでアルバムを作り始め、それを私も手伝っています。写真を集め、台紙に貼るのですが、写真選びや構成など案外難しいものです。集めた写真を眺めながら思い出話をすることで、この5年間を振り返ることができました。

私たちのクラスは電子情報工学科（I科）1期生ということで、2学年まで学校行事は電気科と合同という形をとっていました。私たちが3学年になって電気科から独立し、初めてI科単独の高専祭を作り上げました。自分たちが何をしたらよいのかわからないという中で、各パートとも試行錯誤していたのを覚えています。

一昨年の体育祭もI科にとっては初めての単独参加でした。“初陣”という文字を染めた団旗を空高くかかげて、4年生以下よくまとまって、練習に汗を流し、競技に全力をあげました。

昨年はI科2度目の高専祭、初めて5学年が揃いました。出品物の回路を作ったり、データを入力している人たちの後ろ姿が心に残っています。全員の努力ですばらしい高専祭を実現しました。

このような一つ一つの思い出が増すたび、私たちのクラスは不安定ながらも団結していったと思います。私は、15歳から20歳という時期を、有明高専で、このクラスで過せたことに、とても満足しています。

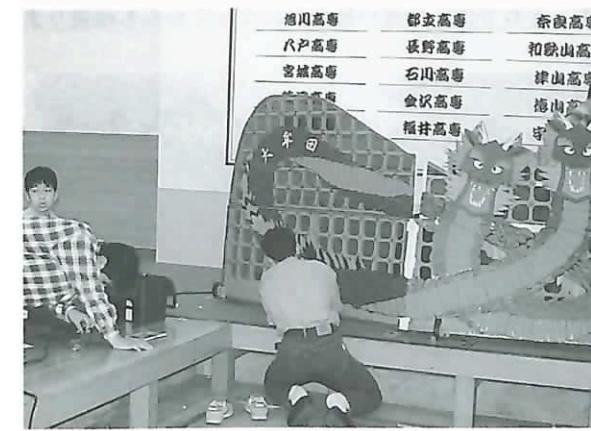
4月から社会人になりますが、今の心境は1の期待と9の不安という感じです。一人暮し、対人関係、会社で働くことなどの思いが私を不安にさせます。実際に社会人になったとき、9の不安は9.8に増すかもしれません。でも、そんなとき、クラスの友人が“心のオアシス”となり不安を安心と期待に変えてくれると思います。そして、自分自身も友人の“心のオアシス”的一部になればと思います。

ロボット

コンテスト

5M 上原 泰臣

11月21日（日）全国大会が終り、5ヶ月におよぶロボコン生活が幕を閉じた。今年、私はリーダーとして今までやってきたわけだが、俗にいう民主的リーダーではなく、独裁的なリーダーだった。授業が終わってから朝まで、みんなをこき使い、そして自分のアイデアを押しつけ、買い出しなど先生まで使ってしまった。とてもひどいことをやってきたと思う。しかし、他の高専も今ごろはみんな必死でやっていると思うと、ひどいことは思いつつ、みんなに仕事を与え、叱咤激励して最後までやってきた。また、みんなは私についてきてくれたし、私の期待にも答えてくれて、とても立派な、予想以上のロボットをつくることができた。大蛇の張り絵をてくれた古賀獎君、1000枚におよぶうろこをつくってくれた溝上さん、名前をつけてくれた小畠君など、また違ったかたちで私を支えてくれ、とてもうれしい限りです。また、先生方をはじめ、クラスのみんなからの差し入れなど、これによって幾度助けられたかわかりません。一つのアイデアが出るために、どれほどの苦労と助けがいるかは、ロボコンをしたメンバーしかわかりません。NHKが取材に来るというのにうまく動かないロボットを囲んでの会議の雰囲気の氣まずさ、うまくロボットが階段を越えたときの心からの歓声の響き、会場の驚きのざわめきなど、普段の生活では決して味わうことのないようなことの連続でした。もしこれからロボコンをやってみようと思う人がいるならば、それなりの覚悟と勇気を持ってやってください。このロボコンは1度はいると途中ではやめることはできないからです。



プログラミング

コンテスト

2I 林田 隆則

我々がコンテストに参加して感じたことは、何といっても全国大会のレベルの高さでした。最初は「まあ参加してみようか」という軽い気持ちで取り組んだのですが、作業が本格化してからは、夏休みも毎日学校へ出て、午前中から夕方まで作業をしました。締め切りの直前などは、夜中の零時すぎまで学校に残って仕上げをしました。このころになるとさすがに「予選通過」が目標となっていました。

予選の結果、その目標が現実となると、今度はバグ（プログラムの欠陥）の修正、操作のテスト、それに本選での発表の準備と練習に追われました。そして準備を全て整えて、名古屋での本選へと向かいました。会場について驚いたのは、予選通過のほとんどが4・5年生で、我々2・3年生の学生がほとんど見当たらなかったことです。それでも、「やれるだけのことはやろう」という気持ちで本選にのぞみました。

結果は、予選通過ということで、特別賞をいただきましたが、我々はその賞だけでなく、他の学校の先輩・後輩方の作品を見て、多くのことを学ぶことができました。これは他の何事にも変えがたいものだと思います。

本選の審査では、我々がプログラムの作成に使用したパソコンの使い方を全く知らない人が審査する等多少我々からしてみれば不満の残る点もあり、その点は非常に残念ではありました。しかし、結果はどうであれ、この大会に参加して得たものはものすごく大きなものであったと思います。



シリーズ

クラブ紹介



牧嶋 400m全国3連覇おめでとう。

田中 ありがとうございます。後輩たちの頑張りもあって、全国大会では、リレー、100m、砲丸でも上位入賞しています。バドミントン部の方もとても良かったそうですね。

牧嶋 お陰さまで優勝こそ逃したけど、団体で準優勝、個人戦でダブルス、シングルスともに3位でした。

田中 バドミントン部は、まだ創部して5~6年位ですよね。それを考えると、すごい頑張りですね。

牧嶋 私自身5年間バドミントンだけに打ち込んできました。そのころ強かった陸上部や剣道部にライバル意識を感じて、負けるものかと思い、ただがむしゃらに階段を駆けのぼった感じです。まあ結果的には追いつかなかったけどね。陸上部は毎年、全国でも好成績を残しているけど、何か特別な練習でも？

田中 これといって特別な練習はしていません。種目別にだいたい3つ位のグループにわかれ、それぞれの自主性に任せています。技術面は、顧問の井上先生のアドバイスを中心に、先輩から教わったことも後輩に受け継いでいっています。それに、400mのトラックがあるところは、近くの高校を見てもほとんどないので、練習環境に恵まれていることも好成績につながるのですが。バドミントン部は、第2体育館を、バレー部と卓球部と共同で狭くないですか？

牧嶋 コート数に対して部員数が非常に多いので、走ったり筋トレをしてコート外でも常に動いているように練習メニューを工夫しています。

田中 バドミントン部は女子部員が多いので、何か工夫しているの？

牧嶋 週3回、女子専用コートを設け、3年生を中心に行練習方法を考え、真剣にやっています。それに、春休みや夏休みの強化練習もうちの醍醐味ですかね。

陸上部・バドミントン部

今回は昨年の高専大会で優秀な成績をあげた陸上部、バドミントン部でそれぞれ中心的な活躍をした陸上部の田中昌臣君(5E)、バドミントン部の牧嶋隆光君(5E)に練習のようすや、苦労話また後輩に対する期待など話し合ってもらいました。

田中 休みの日も練習しているのを見かけます。頑張ってますね。

牧嶋 とにかく、練習環境、時間、お金において満足できるものではなかったので苦労しました。このことは、今もまだ悩みの種です。私個人長期休暇中は、近くの高校や社会体育クラブをはしごして、1日7~8時間練習したことが今回の結果につながったと思う。田中君も3年で優勝したので、プレッシャーや気苦労も多かつたのではない？

田中 2年生までは先輩について練習していたけど、優勝してからは練習中にも良いプレッシャーとなって先頭を引張るようになり、より力がついたと思う。冬場にはサッカーを取り入れて、練習のマンネリ化を防ぎ、練習意欲のリフレッシュを行ったことも良かったのでは？

牧嶋 そうですね。高専は5年間あるので、中だるみして、下級生のときはただやらされているという感じになります。

田中 でも、高専は5年間という長期計画で練習できるから、初心者でもそれなりの努力をしていけば、十分に高専一ぐらいにはなると思います。

牧嶋 それには、まずクラブを卒業まで続け、記念講演で田口先生が述べられたような気持ちを持って、励んでほしい。

田中 それに加え、上下関係や礼儀なども学んで、自分自身を内面から磨いてもらいたいですね。

牧嶋 クラブは人間形成の場として、大いに意義のあるものだと思う。卒業してからもクラブにいたことを良かったと思えるように努めていれば、その人にとって宝となり、強い力となると思います。

田中 それでは、お互い社会人になってからも頑張りましょう。



学生会だより

学生会新役員

学生会会长	安井 光洋(4A)	整 美 倉	副局長	荒山 和子(3I)
副会長	高見 伸一(4M)		副局長	濱口光一郎(2A)
涉外	篠原 吉輝(3C)	風 紀	局局長	高永 秀敏(4C)
書記	門本 和久(4A)		副局長	内田真由美(4C)
会計	佐石橋 英紀(2E)		副局長	緒方 栄介(3M)
副	井上 由紀(4I)	文 化	局局長	浦川 強志(4E)
体育局	家永 浩史(4A)		副局長	斎田任日州(3E)
局長	矢羽田健二(3C)		副局長	坂口 佳晴(3M)
副局長	奥薗 刚(4M)	報 道	局局長	松尾 和登(4M)
副局長	林 美穂(4I)		副局長	坂口 佳晴(3M)
副局長	坂口 譲(3A)		副局長	櫻川 寿子(1A)
補佐	遠藤 剛(2I)	放 送	副局長	由香(3I)
整美局	小柳 修二(3C)		副局長	柏村 美穂(3C)
局長	小柳 修二(3C)			



学生会長 4A 安井 光洋

みなさんは知っていますか？学生会とは、学生全員で構成されている会のことです。学生のみなさん全員が入学のさい、学生会に入会しているのです。そして、学生会役員は、高専教育の目的達成を助長するために学生会が選出すると、学生便覧に記してあります。これから1年間、学生会役員一丸となって頑張っていきたいと思いますので、学生のみなさんも学生会の一員ということを認識しながら、ご協力を願っています。

風紀局長 4C 高永 秀敏

今年は、去年に続いて「言いたい放題意見箱」を設けたいと思います。みなさん新鮮な意見をよろしくお願いします。学校への不満や先生への質問など、なんでも結構です。いろんな意見をお待ちしております。

副局長の内田さん・緒方君とともに頑張っていきたいと思いますので、これから1年間、よろしくお願いいたします。

体育局長 4M 奥薗 刚

12月に開催された球技大会は、体育局長として最初の仕事でしたが、みなさまの多大な協力で成功させることができました。ありがとうございました。

ところで、今年は体育祭の年となりました。体育祭を成功させるため、アンケートを増やしますので、皆様のご意見をよろしくお願いします。

そして、決断と実行をモットーに、よりよい学生会になるよう精一杯頑張ります。

整美局長 3C 小柳 修二

よく、有明高専は汚いと言われますが、これは事実です。この問題を改善しようと、いろいろ努力していますが、あまり成果はありません。しかし、みんながゴミをゴミ箱に捨てるだけで、学校は、ずいぶんきれいになるはずです。有明高専がきれいな学校と言われるようにゴミはゴミ箱に捨ててください！また、掃除もさぼらずにきちんとすれば、もっときれいになるはずです。ご協力お願いします。

リーダー研修



新しい学生会が発足しました。その新役員が学生主事室とともに、11月26、27日、大牟田ハイツで1泊研修を行いました。26日夜、新役員としての抱負を語ったあと、学生会活動や新年度の行事について、活発な討議を行いました。また、今回は前会長を含む前学生会役員3名が参加してくれたため、体験に裏づけられた貴重な助言が得られ、一層有意義な研修を行うことができました。

学寮だより

寮長の4A安武です。

昨年の春に、桜棟ができ、夏には男子寮も改築されました。ここで、外見だけでなく寮の中身も変革が必要だと感じました。古くなった物を新しい物に変えるということは大事なことです。しかし、ただ単に新しくなればよいというものではありません。やはり、先輩方によって受けつがれてきた岱明寮の不屈の精神、そして伝統を大切にしながらも、今の岱明寮生にとってよりよい生活を過ごせるような寮にしていきたいと思います。

副寮長の3A安藤です。今回は副寮長という大役なので、他の寮生会のみなさんに迷惑をかけないように、特に寮長の安武さんの手となり足となり頑張っていきますので、よろしくお願ひします。

総務書記の4E堤です。現在、寮も改築され、新たな気持ちで寮生活を過ごすとともに、三役ということで寮長の片腕

となり、住みやすい寮にしていきたいと思います。

渉外の4A松尾です。渉外と言えば、みなさん何をするのかと思われるでしょうが、僕もよく分かりません。よってなかなか役に立てないと思いますが、迷惑をかけずに頑張って行きたいと思います。

会計局長の安井です。1円のくるいもないように副局長の児玉君とともに、頑張っていきたいと思いますので、寮生諸君、寮生会費を徴収するさいにはどうかよろしくお願いします。

風紀局長の4A磯部です。来年度は最上級生ということで、皆さんの手本となるように頑張ります。あと副局長の3Mの緒方君は、どうしようもない奴ですけど、根は本当に良い奴ですのでよろしくお願いします。

整美局長の4A家永です。今年の整美局の目標としては、毎週行っている公共場の掃除を徹底させるということです。私たちも寮の美化に努めたいと思いますので寮生のみなさん、協力よろしくお願いします。

体育局長の3C小柳です。今年も例年どおり球技大会が行なわれますが、皆さんが楽しんでいただけるよう2A濱口君と一緒に、頑張りますので、皆さんも球技大会には積極的に参加して下さい。

厚生局長の4A岡です。今年からできた役なので、わからぬことがたくさんあると思いますが、副局長の末

山君とお互いで助け合っていきたいです。みんなと食堂のつなぎ役となれるように頑張ります。

厚生局長の4A合屋です。

厚生局は、表に出て目立つような仕事はありませんが、寮生の食事の改善やテスト中の夜食配りなどで、寮生の食生活を裏側から支えていきたいと思います。

報道局長の3A渋谷です。報道の仕事は比較的地味だと思いますが、その地味な仕事を自ら進んで行い、早く、ていねい、楽しいをモットーに2C平嶋君と二人三脚で頑張ろうと思います。

娯楽局長の3E佐尾です。娯楽というのは、寮生活にかかせないものなので、自ら娯楽を愛し、楽しみ、寮生のみなさんに迷惑をかけないように、副局長の3C和田君と一緒に頑張りたいと思います。

写真局長の4M高見です。自分は、副局長の矢羽田君と一緒に、皆様のよろこぶ写真、思い出になる写真、はずかしい写真などを撮り、がんばっていきたいと思っています。

銀杏棟棟長の4A宮崎です。今までこういう寮の仕事はしたことがなかったので、何をすればよいかよくわかりませんが、自分に任せられた仕事をきちんとこなし、寮生の役に立ちたいと思います。

紅葉棟棟長の3M末山です。紅葉棟には主に3年生が生活しています。3年生というのは勉学を含めて大切な時期なので、みんなが安心して過ごせる環境を作つて、少しでもより良い棟になるように頑張りたいと思います。

若葉棟棟長の2A濱口です。去年12月に完成したばかりの新しい棟の中で、“勉強は、勉強、楽しむときは、他人に迷惑をかけないよう大きいに楽しむ”といった、けじめのある生活の場を、作りあげたいと思います。



建築設計競技

福岡県建築士事務所協会主催で、平成5年度福岡県内工業高校生ならびに専門学校生による建築設計競技が9月に行われました。課題は高校生の部が「21世紀の社宅」で、専門学校生の部が「地域に建つコミュニティ施設」でした。本校からの応募の内3A田畠友里恵さんが銀賞に輝き、5A渡辺公次郎君が協会賞を獲得しました。

テクノデザインコンペ

(財)久留米・鳥栖地域技術振興センター主催で、九州の高専生を対象とし「ハイテクと生活」をテーマとする「'93九州地区高専テクノデザインコンペ」が10月に行われました。本校からは6作品を応募し、最優秀賞をはじめ5作品が入賞しました。その結果は次のとおりです。

賞	応募者	作品名
最優秀賞	5A 吉田美登子 谷口 尚子	ATOMIC ENERGY CITY ~100年後の未来都市構想~
優秀賞	4A 山下 陽子・福本美和 米田由希子・興膳弓子	身障者のための家
努力賞	5A 武田 真樹	宇宙都市
入選	3A 石川 美奈	電動目覚ましまくら
入選	5A 渡辺公次郎	これからの老人住宅

平成5年度資格試験合格者名

情報処理技術者試験(第2種)

学年・クラス	氏名
2I	小田謙太郎
3I	田中 智

実用英語検定試験(2級)

学年・クラス	氏名
2E	江頭 義也

実用英語検定試験(3級)

学年	人數
3年	5名
2年	8名

工業英語検定試験(4級)

学年・クラス	氏名	
1M	石川 英直 鹿児島弘規 志岐 佳謙 馬田 雄一	
1C	江崎 孝政 河野 伸也 田中 仁志 瀬戸 沙織	
2E	瀬戸 沙織 有田 聰 江頭 義也 加藤洋一郎 黒岩 剛 雜賀大治郎 猿渡 優一 月足 賢治 橋本 孝文 水田 雅之	石橋 英紀 大輔 彰宏 川村 真宣 小寺 智 坂田 裕人 田中 秀典 長友 大輔 松本 崇 米田 秀平

バイク講習会

平成5年11月1日(月)バイク実技講習会が、大牟田警察、大牟田地区二輪車安全普及協会の指導のもと、本校グラウンドで実施されました。参加学生は、1年～3年生のバイク通学生と事故・違反を起こした4、5年生の77名でした。また、都合によりこの講習会に参加できなかった学生を対象に、11月20日(土)、荒尾第2自動車学校で同様の講習会が行われました。バイク通学生は、これらの講習を生かして安全運転を心がけてください。まず、スピードは控えめに!

第25回吹奏楽部定期演奏会



本校吹奏楽部の第25回定期演奏会が、2月5日(土)、午後6:00より大牟田文化会館大ホールで開催されました。今回は25回の節目ということで、客演指揮に不知火女子高等学校吹奏楽部の山本先生をお迎えし、また常任の歴木中学校菅原先生とともに現役部員44名で一部(オリジナル)および二部(クラシック)の演奏を行いました。三部は学生指揮(明野英一郎)によるポピュラーステージで、趣向を凝らした5年生の紹介等の演出もあり、盛大な拍手をいただきました。

体育系クラブリーダー研修会

2月1日(火)、本校において、体育系クラブの新しいキャプテン、副キャプテンに対し、リーダー研修会が行われました。

まず、「リーダーとしてどのようにチームをまとめていくか」と題して、梅野哲雄氏(福岡県高体連理事長)の講演があり、その後、3班に分かれて分科会を行いました。講演では、高体連の組織についての説明も交えてあり、大変有意義であったと思います。また、分科会では、各クラブの実情など情報交換等が行われ、新キャプテンたちにとって、貴重な経験になったと思われます。

九州地区国立高専**ラグビー・フットボール大会**

ラグビーチームは、昨年11月14日(土)、久留米高専にて、ラグビーフットボール九州大会に出場した。前日からの雨のため、あいにくグランドコンディションは悪く、全力を尽くして戦えるかどうか心配だった。この高専大会までの1年間、例年よりも多くの試合を消化し、5年生も7人と多く、期待がかけられていた。しかし、部員全員でみると、1チーム作るのがやっとであり、また、コーチも病気のためほとんど来られず、厳しい状態であった。

第一回戦の相手は八代高専だった。体重・身長など、数値的にだいぶん差があった。だからこそ、それを克服するために今まで、ひたすら練習をしてきた。試合開始早々トライを取られてしまったが、有明はフォワードの動きが良く、終始敵陣で戦い、前半に1トライ返し、後半にも1トライ取り12-5とリードしていた。しかし、試合終了間際にトライを取られ、ゴールキックも決まり、同点、そのままノーサイドとなった。最終的には抽選の結果、2回戦への出場権は得られなかったが、全力で戦った結果であり、悔いの残らないよい試合であった。

球技大会

昨年12月2日(木)冬季球技大会が開催されました。大会2日前の雨のせいで、グラウンド一面水浸しになり、晴天時の種目は無理かと思いましたが、サッカー部、ハンドボール部、野球部の方々による復旧作業のお陰で、無事、晴天時の種目で行うことができました。

そして、参加されたみなさんが、今まで以上に練習を積まれたことにより、これまでにない「筋書きのないドラマ」を作られたことと思います。

女子種目においては、初の試みとして、機械及び電気の連合チームの出陣により、ひと味違った試合が展開されたことでしょう。

次回からもみなさんに楽しんでいただけるよう、精一杯頑張りますので、たくさんのご意見をよろしくお願いします。

(成績)

サッカー	優勝3E
バスケット(男)	優勝3I
バスケット(女)	優勝M・E科連合
ハンドボール	優勝5M
卓球	優勝1M
最優秀クラス	3E



本冊子中M・Eなどあるのは、次の学科を意味するものです。
M(機械工学科)、E(電気工学科)、I(電子情報工学科)、C(工業化学科)、A(建築学科)

編集後記

文部省は毎年「国立大学等広報誌コンクール」を催している。本校も応募して、昨年は奨励賞をもらい、今年は写真部門で優秀賞をもらった。2年連続して受賞するとは、まったく予期せぬ朗報であった。ただ、このような賞をいただくと、うれしい反面、妙にプレッシャーがはいって困る。受賞のことは忘れ、これからも、これまで同様、りきむことなく、みんなに楽しんで読んでもらう紙面を心がけていきたいと思う。本号は特集のメインに卒業生の座談をすえた。興味深く読んでもらえると、ありがたい。

有明高専だより 第82号

平成6年3月1日

編集

有明高専だより編集委員会
発行
有明工業高等専門学校
〒836 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-1011(代)